

# 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入) 平成 22 年度

事業所番号	2795000062		
法人名	(株)エルフ		
事業所名	くつろぎの家エルフ・みと		
所在地	東大阪市近江堂2-6-17		
自己評価作成日	平成 23年 1月 11日	評価結果市町村受理日	平成 23年 5月 16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.osaka-fine-kohyo-c.jp/kaigosp/infomationPublic.do?JCD=2795000062&amp;SCD=320">http://www.osaka-fine-kohyo-c.jp/kaigosp/infomationPublic.do?JCD=2795000062&amp;SCD=320</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会 福祉サービス第三者評価センター		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 23年 4月 16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

くつろぎの家エルフ・みとのケア理念に基づいたケアの実践を行うと共に開所約2年半で利用者の体調及び状態の変化も著しく悪化傾向にある事は否めません。そのため、職員教育をよりいっそう充実したものにして考えております。一言で「認知症老人」と括るのではなく認知症の種類によって症状が異なるということや内臓疾患を併発することでも症状の変化が生じるなど介護プラス医療の見識を理解した上で、介護にあたる努力を惜まず日々取り組んでいます。ここでは、病気の根本的治療はできませんが、「生命を守る」ことをモットーに家族様と共に利用者第一にたとえ日々の中でイレギュラー的な事態が発生しても慌てず冷静にそして何より暖かな気持ちで対応する姿勢でいます。百人の認知症の方がおられたら百通り以上のケア方法が存在するものと考えております。1日、1時間、1分単位で即座に行動できる介護者を目指し日々精進しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

昭和60年から在宅介護サービスを展開してきた株式会社エルフが、住みなれたところで継続して生活できるサービスを実現しようと設立したグループホームです。住宅街にある事業所は、1階が小規模多機能施設で、2・3階がグループホームになっています。「エルフ」はバラの花を意味し、バラの花言葉である「助ける」「共存する」の通り、申し込みがあった利用者は「ことわらない」をモットーとしています。地域との連携にも積極的に取り組み、誰でも入れる、出入り自由の玄関にし、地域の方が認知症に関する相談に来ることもあります。20代から60代までの幅広い年代の職員は、それぞれの持ち味を活かし日々の支援にあたっています。開設2年半で8名の看取りを実施しました。看取りの経験は、生命の大切さ、最後まできちんとケアすることの大切さを職員は学んでいます。管理者の職員を応援する姿勢は、職員が利用者を大切にケアすることに繋がっています。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝のミーティング及び、担当者会議などその都度速やかな対応をしている。	地域密着型サービスの意義や役割を考えながら、法人理念の下、事業所の理念を作り職員間で共有しています。理念は事業所内に掲示し、地域の方や家族にも理解してもらうようにしています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	買い物訓練や散歩を通じて、又運営推進会議を行うことで地域との交流を図っている。地域の行事に参加している。	自治会に加入し、地域の行事にも参加しています。ホームの行事は地域にも知らせ参加を呼び掛けています。近くにある大学のゼミの学生が見学に来たり、大学・商店街共催の祭りに参加したりするなど、次世代との交流もあります。利用者が通う喫茶店での地域の方との交流で、地域の理解・協力の輪が広がりました。地域の方が認知症に関する相談に見えたり、近所の花屋が花植えのアドバイスをくれたりする等、地域とは自然な付き合いができる関係ができています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	地域包括や福祉事務所からの困難事例に対応し、受け入れを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	おおむね、2ヶ月に1度の割合で開催しその場で報告を行い、意見等は今後の取り組みに取り入れる方向に持っています。	2ヵ月毎に会議を開催しています。利用者代表、家族代表、自治会会長、地域包括支援センター職員、学識経験者、他のグループホーム職員の参加で、ホームの活動状況を報告し、要望・助言を受け、サービスの質の向上に活かしています。会議の中で出た意見から、新しいボランティアに来てもらうこともできました。	今後、家族に理解をより深めていただくためにも、運営推進会議の記録を公表してはいかがでしょうか。また、職員にも会議内容を周知し、サービス向上に活かしていくことが期待されます。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の事業者指導課の職員と連絡、相談を行っている。	市の担当者とは日頃から積極的に関係を作り、頼れる存在となっています。市のグループホーム連絡協議会では、2ヵ月に1回の割合で勉強会を開き、情報交換の場にもなっています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	一時的な身体拘束をする場合は、介護支援専門員が家族に対して許可を得る、担当者会議を開催し代替ケアを模索し支援を勧めている。玄関の施錠については、防犯上夜間のみとしている。	身体拘束ゼロを職員間で共有しています。身体拘束や高齢者虐待の研修も実施しています。玄関は、出入りが自由で、ユニットの入り口は電子ロックで施錠していますが、利用者は自由に開錠できる状態です。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関する外部の講習を受け、それを内部の研修会で勉強している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常自立支援及び、成年後見人制度を利用している利用者が存在するのでその内容を伝達(研修会)している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、口頭で重要事項説明を行い、1つ1つ理解納得を得てから契約書に記名捺印を行っている。解約の際も同様。変更事項が生じた場合は、書面等で理解してもらっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情連絡先を管理者・市・及び府の連絡先及び時間帯を重要事項説明書に記載して、又口頭で説明を行っている。又、市などからの連絡は、全職員に周知し指導を行っている。	家族には、電話や訪問時に随時利用者の様子を伝えています。運営推進会議にも家族代表に参加してもらい意見を聞いています。意見・要望が表出しやすい雰囲気作りに留意し、寄せられた意見や要望等は、ミーティングで話し合い、改善しています。家族の意見から、書道クラブができ、ボランティアに来院してもらっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝の申し送り及び、その他の研修会などを通じて職員の意見を聞く機会を必ず設けている。又、個人的にも意見や提案が随時できるよう管理者との信頼関係を構築している。又、提案・意見等が全職員へ知らせ検討し反映に繋がらせている。	月2回の会議やミーティングで、職員の意見を出し合っています。管理者は、縁があつて一緒に働くことになった職員に、退職後も付き合えるようにとの思いで職員との関係作りに配慮しています。また職員は、管理者に育ててもらっていることを感謝しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月に1回、本社での管理者会議を通じて職員個々の勤務態度等を報告。又、職員からの「声」を代表者に伝え、代表者は職場環境の改善や職員への福利厚生を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に積極的に参加できるよう職員の実務に関して把握し、参加できる職員には、勤務時間として研修を受けてもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の事業者連絡会に参加し、他事業所の管理者との交流を深めている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアに当たった職員が、記録に些細な言動をも記載し次の担当職員に引継ぎ、介護支援専門員へ連絡し初期段階の「暫定ケアプラン」に生かしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用申し込みの時より、家族の不安を取り除く努力に努め、利用後も定期的に連絡をとり、要望などを聞き取る。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	GH 入居と他の介護保険サービスを併用することは難しいので、とくに提示はしないが、必要であれば自己負担などの了承を得た上で、対応させていただく。福祉との連携や権利擁護制度なども必要に応じて対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護者本位のケアを遂行せず、共有する生活環境を整えている。例えば、趣味、嗜好を考慮し、元来の性格をも念頭に入れ、利用者を中心として共に共同生活を実践している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者を中心に家族、施設職員が三位一体となって、家族を取り込んだ介護をおこなっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出来ていない。	友達が訪問したり、馴染みの美容院、喫茶店、たこ焼き屋に行ったり、これまでの生活が継続できるように支援しています。家族の月命日に、毎月自宅へ帰る利用者もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者同士の居室を隣り合わせにし、お互い行き来が出来るようにしている。又、気の合う利用者同士がフロアの1部でゆっくりとくつろげる空間作りを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	出来ていない。但し、小規模多機能へ移行された方については引き続き、必要に応じて相談の助言などはしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1日の生活リズムを個々に合わせている部分と共同生活での時間の部分を配慮している。	センター方式のアセスメント様式を使い、利用者や家族の思いや希望、意向を把握しています。ぬり絵が好き、喫茶店でモーニングが食べたい、月命日には帰りたい等、利用者の思いに沿ってのサービスを実施しています。日常的な関わりの中での気づきや発見は、申し送りで共有し、介護計画に反映しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を使用(経過)し、努力している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	CM・NS・ケアスタッフが、同じ方向で介護にあたっている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>ケアプラン作成時、本人及び家族の意見(思い)を考慮し各職域のスタッフ話し合い(担当者会議)現状に即したプラン作成を行っている。</p>	<p>本人・家族の思いや希望、意向に沿った介護計画を立てています。介護計画は、入居の際、暫定介護計画を立て生活を観察し、本人や家族の意向を聞きながら1ヵ月後本プランを作成します。見直し期間は基本的に3ヵ月で、状態の変化に合わせて随時見直しを行っています。計画作成担当者は、日常的に関わっている職員の考えを尊重し、計画のたたき台を示し、カンファレンスで職員の意見を聞いています。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>1日の流れをスタッフが共有できる記録方法(PC・紙ベース)を残し、情報の共有に努力している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>従来の介護者優先のケアは行わず、利用者のその時の状態に応じたサービス提供を行い、一元化はしないよう努力している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	少数ではあるが、地域密着した暮らしを支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週に1回（異常時は適宜）の往診医との連絡、情報の共有に努め、又、家族の信頼が得られている。	利用前からかかりつけの医療機関に受診できるよう、家族と協力し、職員が通院介助を行うケースがあります。事業所の主治医の診察は2週間に1回ですが、医療連携体制で夜間や緊急時の対応も可能です。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護師を常置し、利用者の体調管理を徹底している。介護と看護が一緒になって利用者の変化に目を向けて介護にあたっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	協力医を通じて、又、病院のSWと情報の交換を常日頃重視し連絡を密に取り合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化の指針を入居時に説明し、家族の理解を得ている。その後、ターミナルに移行する場合も家族（本人）の意向を最優先し看取りケアの研修をしている。</p>	<p>契約時、重度化・終末期ケアについて説明し家族から同意書を得ています。終末期には看取りについて、家族の意向を改めて聞きます。開設から2年半で、8名の看取りを実施しました。映画音楽が好きだった利用者が音楽を聴きながら息を引き取られたケースがあります。また、ホームで看取りを行った利用者家族より、「生前から帰りたいと言っていた桜島に見える墓地で眠っています」と感謝の手紙が届きました。看取りケアの経験で職員は、生命の大切さや、最期まできちんとケアすることの大切さを学んでいます。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>外部研修、内部研修を通じて看護職を中心に徹底した実習を行っている。担当地域の消防署へ依頼し研修を重ねている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員間では研修をしている。地域住民との関わりは、行っていない。	年2回避難訓練を実施し、うち1回は消防署の協力を得て実施しています。新人職員教育の際は、火災報知機の使い方や避難方法の指導も行います。緊急時や災害時の対応マニュアルも作成しています。非常災害時の食料品備蓄に関しては、使用後の補充ができていない状況です。	災害の発生に備え、水や食料の備蓄について、再度確認することが望まれます。また、日頃より地域住民に事業所の災害対策に関する理解を求め、協力体制を築いていかれることが期待されます。避難訓練時、地域の方にも参加が得られるよう、検討してはいかがでしょうか。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声がけ、接し方は、常々職員に教育を行っている。又、利用者の尊厳が損なわれないように CM を中心に対応に努めている。	職員は、利用者の尊厳に配慮し、誇りやプライバシーを大切にされた言葉かけや対応を行っています。プライバシーに関するマニュアルは、日常のケアの中で気をつける具体的な項目が記載されています。アセスメントの際には、個人の尊厳まで立ち入っていないか等、行き過ぎたヒヤリングをしないよう配慮しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「声なき声に耳を傾ける」をモットーにした介護目標を掲げ、担当制を樹立しつつある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	介護者或いは施設側都合を極力避け、利用者本位の生活パターンを構築しているが、全てにおいては困難な状態である。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの洋服や髪型を職員が把握してケアに当たっている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	片付けは行っている。準備は、行っていない。	食事は業者によるクックチルドを使って昼食・夕食は1階で作り、朝食は各フロアで作っています。管理者は利用者の希望や意見を聞き、業者に伝えています。医師の指示により、ミキサー食の利用者が数名います。	嚥下困難な利用者にはミキサー食を提供していますが、嚥下しやすく食事の見た目も楽しめるプリン食等の提供が期待されます。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、飲水量の把握を行い、記録に残している。拒否傾向や飲水の嗜好も考慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の状態に応じた口腔ケアを毎食後行い、歯科との連携を図って正しい口腔ケアの方法を職員が学んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄自立を目標としたケアプランを策定し、自立に近づけるよう、排泄コントロール(利用者に合わせた)、声かけ、誘導を行っている。夜間においては安眠を優先し、排泄用品の有効活用を行っている。	排泄チェックで、トイレでの排泄が基本です。オムツが外れて布パンツになった利用者、退院後バルーンカテーテルを外した利用者のケースがあります。泌尿器科で臨床経験のある看護師が、排泄に関して力を発揮しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	予防として、補水、運動、入浴時のマッサージを行い、医師とも相談し、最善の薬品を服用している。(医師の管理下)		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ある程度は、個々の希望を取り入れているが、週2回以上の行政指導に従っている。時間については、午後からと基本的には決定している。	週2～3回入浴してもらっています。浴槽は、三方から介助ができるようになっており、利用者に安心して入浴してもらっています。花を見ながらリビングや庭での足湯も、利用者に喜んでもらっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の自発的活動を最優先しながらも、日々の体調や本人の希望に応じて休息をとっていただいている。夜間においても、基本的には、個々の希望に沿うようにはしているが、共同生活の範囲内としている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期的往診時に薬剤師が同行し、薬剤について細やかな説明を受け、全職員に情報の共有を行っている。服薬管理を徹底し、誤薬がないよう努力している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1部の利用者に対しては、活動的な支援を行っているが、自発性のない方々については、危険回避を最優先している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	1部の方々については毎日外出支援を行い、帰所がわからなくなる人でも希望があれば外出していただいている。家族に週1回程度外に連れ出してもらったりもして協力をいただいている。	定期的な外出ではなく、その日その日の天気や利用者の様子に合わせて外出するようにしています。近くの神社やドライブ、買い物に行きます。喫茶店にモーニングを食べに行く方、馴染みのたこ焼き屋に行く方、利用者がこれまでの生活を継続できるよう、外出の支援も行っています。一人で散歩に行く利用者もいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理可能な利用者については、個々で買い物に行ってもらっている。又、喫茶店なども自由に行っていただいている。（喫茶店や商店にはあらかじめ管理者が挨拶に行っている）		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	遠くの家族や、面会の少ない家族には定期的に電話をし、話ができるように努力している。		
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	神経質にならずある程度の生活臭は当たり前と考えている。但し、異様な悪臭などについては、発生しないよう努力している。	日当たりのよいリビングからは、隣にある保育園が望め、園児たちの楽しそうな声が聞こえてきます。リビングにはソファを置き、寛げるスペースを作っています。個別で話ができる場所として、プラットホームと名付けた場所が廊下の片隅にあります。	より家庭的な雰囲気ができるように、季節感や生活感を楽しんでもらえるような空間づくりが期待されます。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	集団の中で個人的な場所提供は困難ではあるが、廊下の片隅に椅子を置くことにより気の合う利用者同士の居場所として提供している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れたものを設置する利点と安全性を考慮した配置をしている。	各居室は南向きで明るく、クローゼットと洗面台が備えられています。家具やテレビ、仏壇、タンス、机、写真など使い慣れたものや思い出の品を持ち込み、安心して居心地よく過ごせる居室になっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共同自立と個人的自立の相互関係をしっかりと把握することでトラブルなどが生じない努力を行っている。		